

## 2014年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名：神奈川県立高津養護学校

担当：美術、生活単元学習、高等部一年

氏名：牧 ちさと

### 1. 今回の研修における目的やねらい

- ①開発途上国における学校教育、特に障がい児教育・障がい者支援の実態を知る。
- ②タンザニアの人々の生活を知る。水や電気のことや食事について知ることで文化の多様性を知り、教員として広い視野を持った教育活動を行えるようになる。
- ③研修を通して国際協力を行う日本や日本人の活動・思いを知ったり、日本とは異なる文化を知り理解したりすることで、国際協力とは何か考え行動できるようになる。

### 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

- ①事前の調べにおいて学校教育の仕組みは理解した上で研修に参加した。また、病院等でダウン症や脳性まひの子どものリハビリは行っているが、学校に通っているか不明ということや障がいのある人はスワヒリ語で物として表現されることを知った(最近では「人」として表す語法を広める運動がある)。現地では、自動車利用者の増加により交通事故に遭う方が多発し、十分な治療が受けられず身体に障がいを抱える人が多なっている。そのために職を失ったり学校に行けなくなったりしている人が多いことが分かった。実際に、路側に座って物やお金を乞う人々を多く見た。国の発展として、障がい児教育・障がい者支援を行うのはまだまだ先のことということであったが、一日も早く自立した生活ができる世界になってほしいし、協力していきたいと感じた。
- ②水や電気プロジェクトを視察したりホームステイで現地の人々の生活を体験したりすることで生活の中での電気や水の重要性を知ることができた。日本ではよほどの災害時でなければ水や電気的重要性を感じることはない。家庭で水道から水が出るのが数時間であることと水を24時間供給できるように努力している人々の働きを見て普段、日本では当然のように感じていることが当然ではないということがよく分かった。また、ホームステイ先で衣食住を共にする中で、日本とは異なることと似ている部分を発見することができた。異なる点だけではなく日本と共通する点もぜひ生徒に伝えていきたいと考えている。
- ③国際協力を行う日本政府や日本人に多く出会った。タンザニアを支援するということは、タンザニアの国のためだけではなく、日本の国のためになっている部分もあるのだと分かった。タンザニアで支援をしている一人の日本人が言っていた「相手のことが好きだから一緒に何かしたい」という思いは、開発教育のみならず日頃の生活にも通じることだと思う。今後は、自分と相手のことを大切に考えて行動できる人を育成できるように努めていきたい。

### 3. タンザニアから学んだこと

始めに、自分がいかにアフリカに対するマイナスイメージ、固定観念を持っていたかを考えさせられた。貧困というイメージが先立っていたため、タンザニアで行きかう多くの車、携帯電話を持つ人々、市場に並んだ色とりどりの野菜果物、肉を見て本当に驚いた。アフリカの中には、マスメディアで言われているような貧困に悩む国もアフリカには確かにあると思うし、実際にタンザニアは最貧国と言われてはいるけれど、貧困という言葉のイメージにしばられすぎて日本と比較し「大変そう」と思い込んでいた。また、貧困と不便さ不幸等が必ずしも一緒

ではないということ、自分の目で見て感じることの大切さを再認識できた。

次にタンザニアに行って、タンザニア人と触れ合う中でタンザニア人の豊かな心に触れることができた。あいさつを交わせば、それ以上の言葉を返してくれる。「おはよう、あなたの服素敵ね、とても似合っているよ」等と。ごはんを一緒に食べたら「ご飯を一緒に食べた君は家族だよ」と言ってくれ、家族として受け入れてくれる。伝統的な布カンガを自分用に仕立ててもらいアレンジしておしゃれに着こなしている人々や一つの部屋でご飯を食べたり皆でテレビを見たり、おしゃべりしたりする家族。あいさつさえも面倒になってしまったり、言いたいことは直接言わなかったり、孤食や大量生産の服を身につけることが当たり前になりつつある日本人とは対照的なように思えた。

最後にイスラム教とキリスト教等の宗教の違いや部族の違いはあるけれど、違いを認め当たり前として受け入れることができるのだと学んだ。ニエレレ大統領の政策が成功したことも理由に挙げられるだろう。実際に学校ではイスラム教とキリスト教の生徒が席を並べ勉強に励んでおり、休み時間は談話している姿が印象的だった。「学校で宗教の話はしない」と学校交流の際にある生徒が言っていたそうだが、タブーというより自分の信じるものと人が信じる者は違っていて当たり前、気にしないということではないかと考えた。

#### 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

研修でタンザニアに行くに当たり、生徒たちとタンザニアとは何かを考えた。一人もタンザニアが何であるか分からなかった。調べていくうちに遠いところにある国だと分かり、何を食べているのかどんな人たちなのか考えている生徒もいる。知らなかったことに対してだんだん知識が増えていくともっと知りたくなる、興味が出てくるそんな生徒の姿を見て、タンザニアのいいところをたくさん伝えたいと感じた。今回の経験を生かして、生徒たちがタンザニアの人々の生活や文化を体験する機会を多く設定して生徒に伝えたい。その中で知らなかったことがだんだんと分かってくいき、興味がわいてきたりさらに関心が出てきたりする。相手の生活や文化を知ることによって自分の身近に感じ遠くの誰かに思いを寄せられるような生徒になってほしいと考えている。加えて、タンザニアで働く日本人のことも伝えたい。今回の研修で出会った日本人は夢や目標を持って働いていた。卒業後、社会人となる生徒たちに夢や目標を持って働くことの尊さを伝えたい。

また、同僚や家族・友人にも自分の体験やタンザニアの現状を伝え、興味を持ってほしい。無関心であったことに興味を持つ知識を持つということが、タンザニアの発展につながるかもしれない。

今後の日本の国際教育の在り方について考えていかなければならないと強く思った。日本の教育では多くの人々が最低6年は英語の勉強をしているはずなのに、自分の思ったことを相手に伝えられる人、伝えようとしてくれる人はどれくらいいるのだろうか。世界の多くの人とつながることができるツールとして活かしているだろうかと自身を振り返って反省していた。タンザニアの教育制度を知り、実際に英語で行われる授業や母国語のスワヒリ語ではなく英語で友人らとコミュニケーションをとるタンザニアの学生たちを見て、日本の教育に疑問を持つことができた。日本語ももちろん大切だけど、英語が話せたらもっとたくさんの世界の人とつながれるのに、と。この疑問を自身の活動に活かしていきたい。

#### 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

①事前研修で数回、参加者同士で集まり話し合い等を行った。年齢も校種も様々で、各学校で

の取り組みや各学校の生徒の様子を知ることができ、影響を受けることが多くあった。今後もこのような形で研修を行ってほしい。

- ②研修メンバーそれぞれが与えられて役割以上のこととしており、支えてもらうことが多くあった。自分から気づいたことは積極的に取り組むとさらにより研修になると思う。
- ③個人の旅行では絶対にできないこと、知れないことを多く経験することができた。たくさんの人との出会いが今後の財産になると思う。

## 6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

- ①自分のできそうなことは積極的に引き受けること。今年は各自ができることをこなしていたと思う。
  - ②懇談会等でレストランの注文をまとめる係は必要だったかなと思った。
  - ③交流係 学校交流では前日は時間と流れの確認だけになってしまったので、道具の準備と確認もするべきだった。  
私自身は病院との連絡係だった。派遣されている隊員の方とメールで打ち合わせを行ったり情報交換をしたりしていた。前日に直接お話しできたことで患者さんと折り紙交流をすることができたのでよかったと思っている。
  - ④団長と副団長 役割分担ができていてよかった。特に団長は勇気がある場面が多く、大変だったと思う。
- ホテル係      なにかと忙しかったと思うが、フロントとの交渉など細かく行ってくれて助かった。
- 記録係      記録係の設定は必要だったと思うが、固定した人が行うのではなく、日によって人を変えればいいのか
- 交流係      交流する学校の数によって人数は変えた方がよい。
- 会計      手際良く処理していただいて感謝している。2人は必要かもしれない。

## 7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

- ・事前研修では、研修での係分担やスワヒリ語講座、前年度の参加者からのお話、横浜市水道局の方の話など、本当に盛りだくさんであった。メンバーで話し合ったこと等メモを取ってその日のできごとをまとめておくと毎回スムーズに話し合いができたのではないかなと思う。議事録等の重要性を痛感した。
- ・現地での研修も毎日がとてもハードだったが、振り返りの時間に情報共有できたり各々の反省を聞いてさらに考えを深めたり、自分では考えつかなかった意見を知ることができて、とてもいい時間だったし整理することができた。
- ・最終日に具合が悪くなってしまったが、活動に支障が出なくてよかった。皆さんに心配をかけてしまって申し訳なかったが、食べすぎ注意！良い経験になった。
- ・このような貴重な機会をいただけたことにまず感謝したい。タンザニアから帰国して、「毎日があつという間だったな」としみじみ考えている。活動現場の視察で得る新しい情報や学校や病院での交流、さらにタンザニアの人々、JICA スタッフの方々、ファシリテーターの阿部さん、青年海外協力隊の方々、サラさんとたくさんの方々のおかげで毎日が本当に充実した研修になったと思う。研修メンバーも個性豊かで、笑ったり考えたり、泣いたりたくさん人の時間と知識と感情の共有ができたと思う。皆さんに心から感謝したい。

## 8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

- ①事前研修では毎回、とてもたくさんの情報を得る。有益な情報がたくさん得られるため周りの意見をよく聞き、もう一度自分の中で処理する必要がある。必要なことややるべきことを厳選して、ある程度優先順位をつけて研修に行かないと、現地でゆっくり考える時間はほとんどなかった。さらに可能なら研修国のことを調べて疑問を持つといくと良いと思う。
- ②現地での研修中は、食事管理・体調管理に細心の注意を払う必要があると思う。私は最終日あたりまで何もなく過ごしたが、最後の最後で具合が悪くなり皆に迷惑と心配をかけてしまった。生野菜等を食べないように気を付けていた結果、油ものに偏ったときがあり、それが原因で具合が悪くなったと思う。
- ③あいさつ+ $\alpha$ が現地の言葉でできるとたいへん喜んでもらえるし相手も分かろうとしてくれる。英語が通じる国なら英語ができるといいと思う。私は英語が理解できない部分が多くあり、視察の時にはとても困った(現地の方の説明の大部分が英語)。周りの参加者が親切で解説してくれる部分があり、疑問に思うことや考えを深めることができた。何を言っているか分からないままだったら、何の实りもなかったので、分からないことは「分からない、教えてほしい」とお願いする姿勢も大切だと思う。迷惑をかけない程度に……。現地の人と話したりコミュニケーションを取ったりする際は、ジェスチャーや表情で伝わる(分かってくる)部分が多く、恥ずかしがらず積極的にいくようにしたら仲良くなれた。

## 9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月11日(月) -12日(火)	日本からタンザニアまでの 移動中および現地到着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出国の際にトラブルに見舞われましたが、無事に出国した。乗り換え地のドーハの空港は大変広く、また prayer room があり、イスラム圏に来たことを実感した。子どもが遊べる施設が点在していたり、ゴミの分別がしっかりしていたりと配慮された施設であった。</li> </ul>
8月12日(火)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康安全に関するブリーフィングではタンザニア国内において気を付けることを確認した。アフリカの国の多くが悩まされているマラリアは改めて恐ろしいものと思った。</li> <li>・ タンザニアの歴史や近年の目覚ましい発展について伺った。これまで見られなかったような高いビルや自動車、これらがもたらす問題等々興味深いものであった。</li> </ul>
8月12日(火)	本日の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タンザニアに来ての感想や疑問を全員で話し合った。</li> </ul>
8月13日(水)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育に関するブリーフィングでは国家試験やカリキュラムがタンザニアにおける教育の大きな課題だと感じた。</li> <li>・ ZAWA の基本知識を丁寧に教えていただいた。</li> </ul>
8月13日(水)	ザンジバルへ移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港は大変賑わっており、安全面での注意が必要であった。</li> <li>・ 船内は価格によって3か所に分かれており、船上は揺れが激しかったが、ダウ船や自力で海を渡ろうとしている人を見かけたり、タンザニア人と話しをすることができた。</li> </ul>
8月13日(木)	隊員との懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンジバル島に派遣されている青年海外協力隊の方々と懇談を行った。現職教員制度を利用してきている体育隊員の方から「タンザニア人が積極的に体を動かす機会を作りたい」と展望を伺い、目的をもって活動を行う教員に感銘を受けた。</li> <li>・ 翌日の病院訪問の打ち合わせを行った。急きょ、入院患者に日本からのお土産として折り紙を渡せることになった。</li> </ul>
8月13日(水)	本日の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンジバル島の感想や会計関係について話し合いを行ったり情報交換を行ったりした。</li> <li>・ 翌日の病院訪問の確認を行った。カメラを撮る人、見学のグループ分け等。</li> </ul>

8月14日(木)	ムナジモジャ病院 沢谷隊員 活動視察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院は様々な国からボランティアが来ており、日本だけでなく韓国や中国、ヨーロッパからのスタッフが働いた。国際協力の上手くいっている現場のいい例だと感じた。</li> <li>・入院病棟にはたくさんのお子どもがおり、一部屋に20人はいたのではないかと思う。狭い印象でしたが、入院費治療費無料ということに驚いた。</li> <li>・ダウン症や麻痺を抱える子への療育に加えてを保護者に興味をもってもらうことも課題の一つなのだと分かった。</li> </ul>
8月14日(木)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源地やろ過施設等の見学を行った。雇用を増やそうと地域の方を積極的に雇っている事が分かった。</li> <li>・日本の支援によってつくられている施設が多くあり、日本に研修員として来ているタンザニア人が多くいることが分かった。</li> </ul>
8月14日(木)	ザンジバル見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奴隷市場の見学を行った。狭い部屋に飲まず食わずの状態に2日間閉じ込められていたことや子どもも売られていたことなど、本当に胸が痛む話で、このようなことが二度と起こらないことを切に願った。</li> <li>・市場で鶏(クク)や、スパイス、野菜等たくさんのもものが売られていた。上野等でよく見られる叩き売りをしている青年たちがいて、親近感がわいた。</li> </ul>
8月14日(木)	専門家との懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZAWAの専門家との懇談会では今後の展望やこれまでの苦悩を伺うことができた。夢と目標をもって働く方に強い感銘を受けた。</li> </ul>
8月14日(木)	本日の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院訪問の振り返りと情報共有やZAWA見学の振り返りを行った。</li> </ul>
8月15日(金)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街中の漏水チェックや、違法に使用されている水道の現場を視察した。人間の生活に最もなくてはならないものが水であるが、都市水道と考えれば電気や道路が整っていなければ水を通すことができないという話を伺った。</li> </ul>
8月15日(金)	ホームステイ先との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZAWA職員で街から30分くらいのところにお住まいのBilaliさんのお宅にお邪魔した。到着して自己紹介と日本の紹介を行った。用意していった写真や浴衣・扇子などの本物を見せたり、折り紙や手製の塗り絵を一緒に行ったりした。大変興味を持たれたようだった。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4時くらいに軽く食事をし、片付け等を行った。ココナツの皮がスポンジ代わりや着火材になっていて驚いたが、皿についた汚れがきれいに取れたのが驚きだった。</li> <li>・日本やタンザニアの事などを話したり、皆でテレビを見たりして23時頃に就寝した。父親が寝ようというまで誰ひとり寝ようとしなかった。</li> </ul>
8月16日(土)	ホームステイ先との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝のお祈りをされている間、家のほうきがけを行った。その後、近所の散歩に行ったり Bilali さんの親戚のお家巡りをしたりした。土曜日の宗教学校の様子を見たり、グラウンドでサッカーをしている青年たちと話したり、窯で焼いたパンを売っている人々と話すことができた。日本人がその地区にくるのは初めてということで、質問されることも多かった。年配者に「シカモ」と挨拶すると大変喜んでもらった。</li> <li>・昼食で、近所の子どもたちが数人ご飯を食べにきた。ほぼ毎日一緒に昼食を取っているようで、「ご飯と一緒に食べた人は僕の家族だから」とおっしゃっていたことが心に残った。</li> <li>・一緒にご飯を作ったり、髪の毛を現地の人のように編み込んでもらったりと貴重な体験ができた。いただいたカンガには「あなたは愛で包まれています」と書かれてあり、温かい気持ちになった。たった一日だけだったが、お別れの際は本当に悲しくて、なかなか涙が止まなかった。</li> </ul>
8月16日(土)	教材購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30分程度ホテル近くの散策を行った。欧米の観光客向けの店は日本並みの価格で、販売されていた。</li> <li>・キャッサバのポテトチップスやバオバブの木の実を教材として購入した</li> </ul>
8月16日(土)	本日の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自ホームステイ先で貴重な体験ができたようで、話をまとめるのが大変だった。男性か女性かによってホームステイ先の対応も違うのかなと感じた。</li> </ul>
8月17日(日)	ダルエスサラームへ移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行きよりも縦の揺れが大きくて具合の悪くなる人が多かった。クジラ等も見ることができたそうだった。</li> </ul>
8月17日(日)	モロゴロへ移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダルエスサラーム港では、行きの時にお話ししたポーターの方が覚えていて下さり、声をかけてくださった。とっさの出来事で思わず日本語</li> </ul>

		<p>で話してしまったが、ニュアンスは通じていたのかなと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>途中でサラさんと合流した。10月～日本に留学されるということで、日本の話をしたりタンザニアの話をしたりした。サラさんのカンガを仕立てたワンピースがとても素敵で、改めてタンザニアのひとたちはおしゃれだと感じた。</li> <li>途中で、昨年度の研修で訪れていたマセユ村を通過した。</li> </ul>
8月17日(日)	隊員との懇親会	<ul style="list-style-type: none"> <li>モロゴロで理数科教員として活躍されているお二人と市場やカンガ屋へ行き購入した。国立公園をテーマにしたものや花をテーマにしたものなど色とりどりのカンガが並んでいた。</li> <li>市場では果物や野菜、日用品が所狭しと並んでいた。</li> <li>懇親会を行いました。学校にもよるが、教員のやる気の低下が生徒の学習に大きく影響していると分かった。また、体罰に関する現地の考え方(体罰は4回までよいと決まっている等)に驚いた。</li> </ul>
8月17日(日)	本日の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>翌日の中等学校生徒との交流を中心に話し合いを行った。時間の流れや交流内容の確認を行ったが、準備物の確認まで行えなかったことが反省である。</li> </ul>
8月18日(月)	キラカラ中等学校 稲村隊員 活動視察	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校見学や教員との交流ののち、生徒との交流を行った。日本に大変興味があるようで、ひらがなで字を書いてとか日本の文化を教えてほしいと頼まれた。最後に生徒たちへ日本の歌を紹介し、反対に生徒たちから「あるいていこう」という日本の歌を歌ってもらって感慨深いものがあった。</li> <li>タンザニアも日本の女子高生も変わらず、明るい笑顔と夢を持って勉学に取り組んでいる姿が印象的だった。</li> </ul>
8月18日(月)	ダルエスサラームへ移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>まっすぐな長い道が続いており、土が赤くアフリカらしい景色が広がっていた。動物は見られなかったが、バオバブの木がたくさん見られた。</li> </ul>
8月18日(月)	本日の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>中等学校生徒との交流の振り返り反省を行ったり、ホテル代の精算を行ったりした。</li> </ul>
8月19日(火)	タンザニア電力供給公社 (TANESCO) プロジェクトサ	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内は整理されており、きれいな印象を受けた。女性職員も多く働いていて、女性の社会進</li> </ul>



	イト視察	<p>出は日本以上という説明に納得であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全くの0の状態から電気供給のための人材育成プロジェクトをスタートした日本人お二人のご苦勞をひしひしと感じた。</li> <li>・タンザニアの人を助けているのではなく、タンザニア人が自立できるようにお手伝いしているという専門家の言葉が心に残った。</li> </ul>
8月19日(火)	教材等購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティンガティンガ村では、たくさんのアーティストが絵を描いていた。タンザニアのことを表現してたくさんの人に知ってほしいとあるアーティストが話していた。日本にも来日したことがあるとおっしゃっていた。アートは人々の生活や動物、妖精等様々なテーマで描かれており、また木ではなく布や瓶に描かれているものもあった。</li> <li>・近所の土産物屋で教材を購入した。カンガの仕立てを行っている女性や雑貨を販売している女性から写真を撮ってほしいと頼まれ撮影した。「日本のカメラは質がいいから」と言っていたが、中古品でも高く買えないということだった。</li> </ul>
8月19日(火)	本日の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TANESCOの振り返りや情報共有、翌日の確認を行った。</li> </ul>
8月20日(水)	JICAタンザニア事務所報告会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自感想を述べ、疑問点等を話した。次長が一つひとつ丁寧に答えて下さり、帰る前に疑問を解決でき、またタンザニアを訪れようという気持ちが強くなった。</li> <li>・3月まで派遣されていた隊員が「交通安全」という曲をタンザニア歌手と共に出して、啓発に努めていたという話を伺った。この国の交通事故が減れば、手足に障害を抱える人が減ることにもつながると思うので、「交通安全」という言葉が広がってほしいと感じた。</li> </ul>
8月20日(水)	在タンザニア日本大使館表敬訪問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大使はとても気さくな方でタンザニアの現状や今後の発展のお話など分かりやすく教えて下さった。「どうしたら大使になれるか」という話の最後で「人との付き合いが嫌いな人は大使をやってはだめだ」とおっしゃっていました。逆に言うなら「人付き合いが好きな人ができる」ということだと思う。このことはタンザニアで出会った全ての日本人に通じることだと感じた。ここで出会った方々は、人との付き合いが好き</li> </ul>

		<p>だからこそ異国において相手のことを尊重して一緒に仕事をしたり生活したりすることができるのだと思う。日本の価値観で支援しているのでは、相手のためにならない。相手を尊重して受け入れることも必要なのだと感じた。</p>
8月20日(水) -21日(木)	タンザニアから日本までの移動中および日本到着	<ul style="list-style-type: none"><li>・ダルエスサラーム空港館内に入るゲートの荷物チェックが非常に混雑していた。お世話になった足立さんときちんとお別れできず残念であった。</li><li>・空港内の免税店の雑貨や本は、街の1.5倍くらいの価格であった。</li><li>・離陸時は具合が悪く、あまり景色が見られなくて残念だったがまっすぐな大地に沈む夕日がとてもきれいだった。</li><li>・羽田空港解散時はとても名残惜しかったが、充実感でいっぱいだった。</li></ul>